

2020 オリンピック・パラリンピックは 環境を守るSDGsピックへ！

● 東京 2020 オリンピック・パラリンピック

オリンピックは、世界最大規模のスポーツイベント。その影響は、環境・社会・経済へと幅広く及びます。本県で開催されるセーリング競技の開催時に選手や観戦者への対応のひとつとしてウォーターサーバーの設置を求めたところ、今後、県内にも広げる方向で進んでいます。日常的なマイボトル運動に繋げるとともに、プラゴミゼロへ向けて、今後もSDGsを推進します。

かながわプラゴミ宣言
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/p3k/sdgs/index.html>



◆県では車椅子やベビーカーでも移動できるビーチマットを用意。貸出の問い合わせは
<https://shinsei.e-kanagawa.lg.jp/kanagawa/uketsuke/dform.do?acs=SF0802>



● ねんりんピックかながわ

来年は60歳以上の高齢者を中心とした、スポーツと文化の祭典「ねんりんピック2021」が神奈川県で開催されます。誰もが生涯を通じて楽しめるスポーツの推進に向けた意義のあるものと考えます。地域や世代を超えた交流を深めるスポーツや文化活動。開催においては、市町村、競技団体などの多くの人々とともに、高齢者はもちろん、子どもから一般の方まで楽しめる大会として、成功を目指し、着実に準備されるよう随時確認してまいります。

2021 <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/eg6/nenrin2021.html>



● 県立スポーツセンター

新しい施設の増設やバリアフリー化を行い、県立体育センターは「県立スポーツセンター」と名称をえてリニューアルしました。多くの人々に、この施設を活用していただけたらと思います。流行している新型コロナウィルス感染症対策には、手洗いと咳エチケットの徹底はもちろん、自分でできる対策として、身体を整えて、健康を心がけることも大事です。健康の原点は食と運動。ぜひ、新たなスポーツへチャレンジを！私も、今年はバウンドテニスを始めました！

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ui6/1/about/open-day.html>



神奈川県議会議員 野田はるみプロフィール

[f](#) 野田はるみ

1958 2月14日生まれ

1979 メルローズ入社 女性が進出し始めた時代。デザイン・マネージメントなどの管理職に携わり、世界30か国を旅をする。

1993 バブル崩壊で、支えあう社会・環境・貧困へと意識がシフト。NPOやNGOフェアートレードなどの支援団体に関わる。

1998 natural & organic ECRU スタート
ホリスティック教育センター「ファンドフォーン」への旅

「持続可能な未来へのクリエイティブ活動」をベースに、マクロビオティック・地域通貨などコミュニティーカフェ運営。

コンサルタントからイベント主催・講演・執筆など多岐にわたる。

2000 NPO BegoodCafe 現在は理事。パーマカルチャービレッジ

「クリスタルウォーター」コミュニティータウン「マレニー」への旅

2004 素晴らしい環境と人間味ある街に惹かれ横須賀に移住

2009 トランジッショントレード

地域の力で、気候変動を乗り越える市民活動のメンバーに。

2010 服と幸せのシェア「xChange」

リメイク＆古着ファッションショー主催@代官山・逗子にて

2011 東北大震災支援プロジェクト「フレシャス」ディレクター
毎月仮設に泊まり、5年間活動。仮設住宅の女性の自立支援活動は「ハートフルなさき編み」として出版される

2017 軍隊を持たない自然エネルギー推進国コスタリカへの旅

2018 ブータンへの旅 持続可能な社会への取組など、今の日本に必要な要素を求め、学校、NGOなどを視察。

2019 神奈川県議会議員初当選



立憲民主党・民権クラブ横須賀市政活動事務所
〒240-0104 横須賀市芦名1-4-10
TEL 046 856 8923 FAX 046 876 8013
www.harumi-noda.com

立憲民主党



FSC® 森林認証紙、ノンVOCインキ（石油系溶剤0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリント認定工場にて、印刷事業において発生するCO₂全てをカーボンオフセット（相殺）した「ゼロカーボンプリント」で印刷しています。

持続可能な消費と 生産へのシフト

S そろそろ
D だれもが
G ぐたいてきに
S すすめましょう！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



私たちにできることは……

「もったいない精神」で捨てない生活に！
買い物スタイルから変えていきましょう。

レジ袋、プラスチック製のスプーンやストロー、商品パッケージ…。日本は一人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量が世界で2番目に多い国。「捨てればゴミ、分ければ資源」。

分別回収とリサイクルの仕組みはあるものの、日本の廃プラスチックのリサイクル率は27.8%と、進んでいるとは言えません。ゴミの多くは海に流れ、小さくなったりはプラスチックは海洋生物に蓄積されます。土に還るには450年もかかります。一人ひとりが毎日の暮らしの中でプラスチックごみを減らす努力がとても重要です。

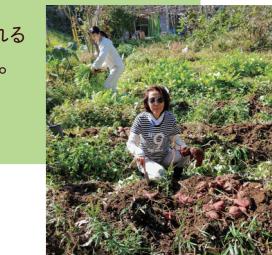


エコなスマートライフの提案

★コンビニ・スーパーでもらうレジ袋、毎回必要ですか？
使いまわし、またはエコバック持参、NOレジ袋！

★マイボトル、またはペットボトルのリユースをしましょう。
大きなサイズを購入して廃棄の数を減らすことも有効。

★食材を大切にして廃棄を減らす！
栄養価が高く丸ごと安心して食べられる有機野菜などを無駄なく使いましょう。
価格面だけの判断ではなく多面的に考えてみませんか？





生活の安全安心

地球の温暖化が進行してゆくにしたがって、自然災害の発生頻度も増加傾向にあります。2019年の台風15号と19号の各地での被害は甚大で、横須賀市も大きな被害を被りました。今、応急対策にとどまらない取組が求められています。堤防の整備や建物の強化、生活に影響する電気・水道などのインフラ面の課題も浮き彫りになりました。住宅や公共施設の屋根に容易に設置できる太陽光パネルや、風力発電、小河川や農業用水を活用した小規模水力、バイオマス、地中熱等の再生可能エネルギーは、分散型エネルギーとして、災害時において重要な役割を果たす可能性があります。今後、これらのコスト低減に資する取組を進めることで、バランスのとれた再生可能エネルギーへの転換と、災害対応が求められます。また、これらは地域に密着したエネルギー源であることから、情報と伝達システムの改善、自治体間での連携、避難所での生活など検証し、今後の災害対策の強化を求めました。

神奈川県の支援

- 台風などで被害を受けた方へ『被災者生活再建支援制度』
- 新型コロナウイルス感染症から事業活動に影響を受けている県内中小企業の皆様へ『売上・利益減少対策融資』

ゆたかなかながわをデザイン

女性活躍

女性活躍推進法が施行され今年は4年目ですが、まだまだ政治経済界での女性の活躍は世界レベルでは低いのが現実。神奈川県議会では定数105名に女性議員は19名18%で全国3位。そのような中で、各地方で様々な取組があります。女性は子育て・家事・介護などと仕事の両立を迫ら



れる現実も多く、正社員雇用や管理職への道のりが難しい環境にありますが、昨年視察で訪れた福井・富山では、様々な多角的な女性活躍支援がありました。神奈川県としてもワークライフバランスの実現など、安心して働き続け、住み続けられる女性活躍の施策を推進し、取組を要望してゆきます。

SDGs未来都市かながわに向けて 市民の願いを県政へ

女性も男性も一人ひとりが、自分らしい豊かな人生を選択できる社会を！

災害に強いまちづくりは
自助・共助・公助が重要で、
地域や住む人々によって対応は異なります。
過去や先進事例に学び、安心できる
街づくりへの政策を進めてまいります。



①川崎市多摩川の浸水の被害状況を視察
②台風15号が通過した直後の横須賀市内
③城山ダム視察



- 沖縄県庁にて
- 住宅街に隣接する危険な普天間基地
- シンポジウム会場の平和へ向けたメッセージの数々



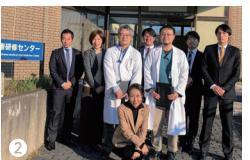
米軍基地問題と地位協定

令和元年度、基地問題などの視察のため沖縄を訪問しました。沖縄に次ぐ第2の基地県で、原子力空母の寄港する横須賀のある我が県。神奈川県でも基地は住民の不安も大きく、大きな問題です。平成30年に改正された地域防災計画の原子力災害対策計画の強化が重要です。災害時の安全確保はもちろんのこと、米国軍人による事件・事故もあってはならないものです。基地周辺住民の安全・安心のため、基地の縮小、日米地位協定の改定に向け犯罪は国内法と同等の同対応を求める「国内法適用の拡充」など取組みの強化を要望しました。

IRカジノ推進の見直しを！

昨年、汚職事件が明らかになり、政府はIR整備基本方針決定を当面見送りました。問題となっている横浜のカジノ誘致。外国人観光客の増加や雇用の創出などの経済効果を期待しての施策ですが、ギャンブル依存症や、治安悪化、マネーロンダリングの問題など負の側面が明らかに大きく、見直し、廃止すべきと考えます。

- ①カジノは廃止を訴える街頭演説
②久里浜医療センターにてネット依存、およびギャンブル依存症に関して講義を受けました



暮らしやすい横須賀

移動困難な地理的環境における移動弱者対策のひとつ「スマートモビリティ」現在横須賀では実証実験が進められています。そのひとつ「AI運行バス」は、乗合タクシーのイメージ。ヒアリングや体験も受け、利用者の多くが高齢者と思われる中、使い易さなどの課題を解決し、少子高齢化・人口流出による地域コミュニティの存続へ貢献できるよう、今後も確認してまいります。



ともに生きる

平成28年7月26日、障害者支援施設である県立「津久井やまゆり園」において、大変痛ましい事件が発生しました。昨年は、聴覚障がい者福祉センターや養護学校はじめ様々な障がいのある方にもお話を伺いました。このような事件が二度と繰り返されないよう、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現するには、理解しあい支えあう意識が大事です。私たちが生きていいくうえで大事なテーマ。昨年は障がい者スクールバス増車の要望をし、県としても取組む方向へとなりました。今後も現場や当事者の方の声を聴き、しっかり取組んでまいります。



ヘルプマークをご存知ですか？

このマークは、義足や人工関節を使用している方や、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の人へ知らせることで、援助が得やすくなるように考えられた物です。皆さんも周りでついている方を見かけたら、席を譲る、声をかけるなど支援をお願いします。支えあう社会を、ともに創りましょう！

